

「橋下松井大阪維新は、またマスコミを使い洗脳誘導している
様に見えませんか？」

平成 27 年 11 月 10 日

●うさぎさんからの質問

橋下松井大阪維新は、自民党の大阪会議に難癖を付け、一度、大阪市住民投票で否決された大阪市解体構想を、無理やりごり押しさせようと、また、マスコミを使い大阪市民府民を洗脳誘導している様に見えませんか？橋下松井吉村大阪維新とマスコミに、洗脳誘導やめろ！と、言いたいです。

●西田昌司の答え

私も全く同感です。

政治における意思決定のルールの一つに「一事不再議」があり、一度議決した案件をもう一度取り上げて議決することは出来ません。このルールがないといつまでも一つのことにこだわって前に進まなくなってしまうからですが、たった半年前に住民投票で否決された都構想を今回のダブル選挙でまたぞろ持ち出す橋下さんらのやり方はルールに反しています。そもそも都構想は大阪市議会で一度否決されたのですが、それを橋下さんが住民投票に持ち込んだわけで（都構想自体には反対であった公明党が「住民投票を実施することには賛成する」と方針を転じた背景もありましたが）、橋下さんは議会制民主主義を全く理解していないとしか言いようがありません。

あの住民投票には莫大な費用がかかっていますし、橋下さんらは維新の党の政党助成金を頼りに 5 億円ものお金を使ってテレビ CM や新聞折り込みチラシなどの広告をバンバンと打っていました。住民投票の際は、私も都構想を潰すべく何度も大阪に足を運びましたが、少ない予算でのやりくりを余

儀なくされていた自民党の先生方は悲鳴をあげていました。そのようにマスコミを巻き込んであそこまでの大騒ぎをした結果、都構想は（僅差ではありましたが）住民によって否決されたのです。敗戦後、橋下さんは記者会見の席上で「僕が提案した大阪都構想、市民のみなさまに受け入れられなかったということで、やっぱり間違ってたということになるのでしょうか」と発言し、政界引退を表明しました。しかし今回、その舌の根の乾かぬうちに都構想に再挑戦するなど叫ぶのは大阪府民・市民をなぶった話でしかありません。

外交においても、一度結論を出した話を蒸し返すのはルール違反です。例えば、日本と韓国は長い交渉期間を経て1965年に日韓基本条約を締結し国交正常化しました。日本は韓国に対して合計11億ドルにもものぼる経済協力をを行い（当時の韓国の国家予算は3.5億ドル）、朝鮮に投資した莫大な資産についても日本は全て放棄しました。これにて両国間の請求権問題は「完全かつ最終的に解決」するはずだったのですが、その後も（いわゆる従軍慰安婦問題をはじめとして）韓国からの対日請求がされ続けています。このように過去の済んだ話をいつまでもねちねちと蒸し返すような姿勢は一番信頼を失う元ですし、絶対にやってはならないことです。

橋下さんらのルール違反の振る舞いに対して、自民党をはじめとする各政党が批判をしていますが、本来は公正・中立な立場であるはずのマスコミや一部の識者は橋下さんらを批判するどころか、逆に彼らを煽るような姿勢に終始しているのは非常に情けなく思います。

そもそも今回、なぜダブル選挙があるのかを考えてみましょう。4年前の2011年の大阪ダブル選挙で、松井一郎さんは大阪府知事、（大阪府知事であった）橋下さんは大阪市長となりました。その時の市長選で、前大阪市長で都構想に反対であった平松邦夫さんに橋下さんが大差で勝ちましたが、橋下さんにとって平松さんの存在は目の上のこぶでした。大阪府知事時代に橋下さんが都構想を進めようとしても、大阪市は政令指定都市で都道府県並みの権限を持っていますし、大阪府知事といえども大阪市長を意のままには出

来なかったのです。そこで橋下さんは平松さん落としのために任期途中であった大阪府知事の座を投げ出すことまでして大阪市長に立候補し、盟友の松井さんを大阪府知事候補に立ててダブル選挙に持ち込みました。それからの4年間というもの橋下さんや松井さんらはもっぱら都構想実現のための活動をしてきたのですが、今年5月に住民によって否決されたのですから都構想はもう終わった話なのです。

都構想は手続きが出鱈目だけでなく中身も全く出鱈目であり、都構想を実現すれば大阪の経済が落ち込むのは目に見えています。予算を増やして大阪を活性化させようというのであれば話はわかりませんが、都構想は大阪で使われる予算を減らす政策であって全く話になりません。橋下さんは前言を取り消すのも平気で現行不一致のそしりを免れない方ですし、彼らが大阪を掌握している以上は大阪が良くなるはずがないのです。

都構想賛成側の「反対するならば、対案を出せ」といった言説がうんざりするほど聞かされてきましたが、私は都構想を粉砕するためにその対案である「新幹線ネットワークによる近畿メガリージョン構想」を自民党近畿ブロック両院議員総会で提案し、全会一致で決議されています。北陸新幹線は平成34年度末に金沢・敦賀間が開業予定となっていますが、私の案では北陸新幹線を敦賀・小浜・舞鶴・京都・大阪・関空というルートで延伸して北近畿を含んだ南北軸を作ります。これまで近畿には南北の大動脈がありませんでしたし、これが近畿の地盤沈下の元だったのですが、この南北軸に加えてさらに東海道・山陰新幹線やリニア中央新幹線といった東西軸と連携することによって計り知れない経済効果を生み出そうというものです。（統治機構を改革して二重行政を解消するといった）都構想のような、ちまちました構想では大阪は救えないのです。

近畿メガリージョン構想というスケールの大きな構想で大阪を甦らせることは東京一極集中を是正することにも繋がりますし、日本全体にとっても絶対に必要です。そのためには近畿の各府県の協力が不可欠ですが、大阪維新は近畿の中で浮いた存在ですし、彼らの中から大阪府知事や大阪市長が選ば

れるとなると、近畿メガリージョン構想で一番肝心の大阪・関空ルートを押さえることも出来なくなってしまう。一方、今回のダブル選挙の府知事候補である栗原さんと市長候補の柳本さんは近畿メガリージョン構想を公約として掲げられています。まともな政策を実行するためにまともな人が選ばなければなりません。皆さんには一人でも多くの大阪府民・市民にこのことを伝えてくださいますようお願い申し上げます。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>